

# 第6期幸区区民会議第4回専門部会 ～魅力発信でつなぐ まちの活性化部会～ 議事次第

日時 2017年1月31日（火）18時半から  
場所 幸区役所4階第4会議室

## 1 開会

## 2 議題

- (1) 調査の進め方について
  - ア 魅力発信の目的について
  - イ 幸区の魅力（地域資源）について
- (2) 今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について

## 3 その他

## 4 閉会

### 《配布資料》

- 資料1 調査の進め方について
- 資料2 川崎市シティプロモーション戦略プランの概要
- 資料3 今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について

参考資料1 おこさまっぷさいわい

参考資料2 第3回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）会議録

参考資料3 第6期幸区区民会議委員・参与名簿

参考資料4 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて

### 《第4回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）獲得目標》

- ・調査目的の決定
- ・調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担の決定

## 1 第3回専門部会の振り返り

### (1) 決定事項

- 幸区の魅力をPRする対象は、30、40代を中心とした子育て世代を対象とする。  
(30、40代にPRすることにより親世代にも広がることが期待できる)
- 次回の部会では、委員及び出身の団体が考える幸区の魅力を出し合う。

魅力発信の目的について、意見交換メモ

### (2) 第3回専門部会で出た意見

- ・今は川崎市はラゾーナのような商業施設や、大きな企業もいくつかあるので、よそから市民が区内に編入してくるということがここから先まだ5、6年は続く。その良さを市役所レベル、区役所レベルで発信して、転入して区民になった人たちに「幸区ってこんな取組があって、こんなところがあるよ」というような発信ができればいいなと思う。
- ・区の魅力というのは小さい範囲ではなくて、かなり広義のものであるという認識で我々が一致すれば、今後の調査はある程度見えてくる。
- ・「利便性」が住みやすい評価の一一番大きな理由になっている。地域資源を区の魅力として定義するならば、断つことは「利便性」となっている。それをまずアピールするということが一つである。
- ・アンケートで回答した人は何を利便性と考えたのか。どういう人がどういうターゲット、目的をもって回答したのか疑問に思うところがある。幸区は区外に出ていくのは便利で、区内の移動が不便。なので区内の人は不便だと思っている。
- ・行事は幸区の地域資源である。
- ・区の内外に「幸区の魅力=地域資源」をアピールする、区の地域資源は何なのかという議論は分かれているが、区外へのアピールとして言えば、「利便性」は絶対に外せないキーワードである。区内の住人に対するアピールという意味では、拠点としての魅力をいくつか事例を出して分析して活用して動かしていくというのを付け加えればいい。
- ・ターゲットは区民全体、とりわけ子育て世代等が考えられる。20代30代という若い層という切り口は外せない。そこに訴えられれば、より広がると思う。将来的なことを考えたらやっぱり30代にターゲットを絞らないと取り残されると思う。
- ・若い人達の悩みを、具体的な内容を掘り下げることや、「ここがあるから幸区は一番いいよね」と言ってもらえるようなものを整理してみることが良いと思う。

## 3 幸区の魅力（地域資源）について

### ◆子育て世代に対して発信できそうな魅力（地域資源）について、項目出し

#### 【項目出しの視点】

- ①幸区独自のものか
- ②重点的に発信すべき魅力か

幸区の魅力（地域資源）について、意見交換メモ

## 2 魅力発信の目的について

### ◆「目的」とは…

- なぜ魅力を発信したいのか  
(例：若い世代に幸区の魅力を知ってもらうとともに、愛着を持ってもらい住み続けてもらいたい)
- 魅力を発信することで、どのようなまちにしたいのか  
(例：幸区への愛着を持ってもらうことで、地域の活動に気軽に参加し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、住み続けたいまちとしてより一層の魅力向上を図りたい)

# 川崎市シティプロモーション戦略プランの概要

## I章 川崎市シティプロモーション戦略プラン策定の背景

### 川崎市を取り巻く社会経済環境

- 人、もの、情報等の移動・交流の活発化や都市間競争の激化、情報技術の飛躍的な発展など社会状況が変化しています。
- 本市は、産業・先端技術に加え、生活利便性や文化芸術・スポーツなど多彩な魅力とともに発展し変化を遂げています。
- 転入超過傾向が続くほか、隣接地域からのイメージや市民の定住意向も上昇傾向にあります。

### 前戦略プラン（H17.3 策定「川崎市シティセールス戦略プラン」）の検証と課題

#### ●前戦略プランの目標と成果

- 目標1：対外的な認知度やイメージの向上（数値目標：川崎のイメージが良いと思う隣接地域の人の割合50%以上⇒達成）  
 目標2：市民による川崎の魅力の再発見、市民としての誇りや一体感の醸成（定住意向の割合増加など）  
 目標3：川崎らしさを活かした川崎ならではの魅力や活力の創出（「音楽のまち」や「工場夜景」など）

#### ●前戦略プランにおける課題

明確な成果指標の設定や、評価と反映がうまく循環できるような仕組み、より効果的な魅力発信の手法等について検討する必要があります。

### 策定のねらい（シティセールスからシティプロモーションへ）

前戦略プランの成果として得た対外的認知度やイメージ向上への取組は継続しつつ、さらに一歩前進させ、「市民が愛着・誇りを持って住み、働き、学び、『川崎市民』としてのアイデンティティ（地域への帰属意識）を形成する」という視点や都市ブランドを強化し、より戦略的にシティプロモーションを推進します。

## II章 本戦略プランの考え方

### 基本方針

- 特色のあるまち、市民等（市民・企業・団体等）による多種多様な取組など、多面性のある特徴を活かします。
- 市民が“自分たちのまちはどのようなまちか”と“川崎はどのようなまちか”を認識・語れるようにします。
- 行政と市民等の相互連携によって、魅力情報を市内外に発信します。

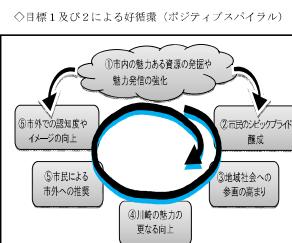
### 目標

#### ●目標1：市民の「川崎への愛着・誇り（シビックプライド）」の醸成

川崎の魅力や地域資源を更に多くの市民に知ってもらい、川崎の魅力の浸透を促進し、市民の「川崎への愛着・誇り」を醸成します。

#### ●目標2：川崎の対外的な認知度やイメージの向上

魅力の情報発信、市民による市外への推奨などにより、川崎の対外的な認知度・イメージを向上させ、市外における川崎ファンを獲得します。



### 本戦略プランの枠組み

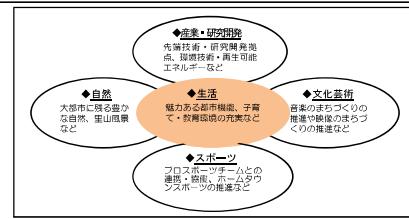
計画期間を概ね10年間とし、2年ないし4年を計画期間とする（仮称）「シティプロモーション推進実施計画」を策定（第1次計画は平成27年度策定）するとともに、新たな総合計画や他の分野別計画と整合性を図ります。

## III章 発信する魅力分野

### 特徴的な分野

川崎の多彩な魅力を特徴的な分野に分類（「産業・研究開発」、「文化芸術」、「スポーツ」、「自然」、「生活」）した上で発信していきます。

また、各分野を連携させ、新たな価値が生まれるよう、分野間の連携を行います。



## IV章 コミュニケーション戦略

### コミュニケーション戦略の展開

- 「知る」・「関心を持つ」・「調べる」・「行く」・「体験や関係づくり」など、段階に応じた情報発信を行います。
- 「知ってもらう情報」⇒「興味をもつてもらう情報」⇒「実際に行ってもらう情報」など、連続した情報発信を行います。
- 情報の利用者層・掲載できる内容・発信回数など、受け手や発信手段の特性を踏まえた適切な情報発信を行います。

### ブランドメッセージの設定（H27）・活用（H28以降）

#### ●統一感のある情報発信

川崎には、「音楽のまち」、「スポーツのまち」などの取組や、個々に特色ある地域があります。そこで、それぞれの取組や地域の特色を活かしながら、川崎の伝えたいことを明確化するため、ブランドメッセージを用いた統一感のある情報発信を行います。

「ブランドメッセージ」・・・企業や自治体などの魅力や考え方を反映した言葉。多彩な魅力を一言で表現し、「将来的にどうありたいか」という方向性も含んだ言葉であり、共感を生むためのもの。

#### ●設定・活用のポイント

- ・ブランドメッセージ作成の際には、市民の参加を得ることで「自分が参加して作られた」という当事者意識を醸成します。これにより、設定後の市民・事業者等による活用へつなげていきます。
- ・様々な市の取組や情報の発信時に常にブランドメッセージを関連付け、川崎のイメージを市内外に定着させます。

## V章 本戦略プラン運用のための仕組み

### 成果指標

達成度が明確に把握できる定量的評価と実感度を把握する定性的評価を導入し、取組へ反映させます。

#### ●定量的評価

##### 目標1（市民の「川崎への愛着・誇り（シビックプライド）」の醸成）の指標

- ・市民の愛着と誇りの醸成度を測る指標として「シビックプライド指標」を用います。  
 川崎市に「愛着を持っているか」、「住み続けたいか」など、複数の設問に回答を求め、結果を集計し数値を算出
- ・市民の市外への推奨度を測る指標として「ネットプロモータースコア」を用います。  
 川崎市への「居住」、「来訪」を友人・知人に薦めるかについて回答を求め、その結果を集計し得点化

##### 目標2（川崎の対外的な認知度やイメージの向上）の指標

- ・隣接都市在住者における川崎のイメージを良いと思う人の割合を用います。

#### ●定性的評価

「目標値を達成したか」ということだけではなく、「どのような実感をもっているか」を市民等との会議体議論、インタビュー調査、アンケート調査における自由回答欄の記載などにより把握します。

### 推進体制

#### ●P D C Aサイクルの仕組み

2年ないし4年を計画期間とする実施計画を策定（Plan）・実行（Do）し、第1期から第2期へと移行する際に確認・評価（Check）を行い、社会状況の変化など最新の状況を加味し、課題を次期計画へ反映（Action）します。

#### ●行政と市民・事業者等の関係

シティプロモーションの目標を達成するためには、行政が単独で取組を行うだけではなく、市民・事業者等と連携・協働して推進していくことが不可欠です。現時点においても市民・事業者等によるシティプロモーションに寄与する取組・活動は数多く行われています。行政はそのような取組・活動と連携、又は支援し、より多くの市民・事業者等がシティプロモーションに取り組めるようにします。

## 今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について

調査の目的：子育て世代向けの地域資源、活動情報を掘り起こす。

調査結果の活用：子育て世代に発信していく魅力として活用する。

### （1）調査の対象について

#### ア 子育てサークル・子育て支援団体

例1：子ねっとさいわい 例2：あつぶる

例3：プレーパークをつくる会

#### イ 子育て世代

例1：子育てフェアさいわい（2/25（土）） 例2：保育園に通う園児の保護者

#### ウ 地域資源

例1：夢見ヶ崎動物公園

### （2）調査項目

例1：団体が行っている子育て世代への取組、事業及びそれに対する子育て世代からの反響

例2：団体が知っている子育て世代が生活する上で役立つ情報、スポット

例3：住みやすいまちにするための取組

例4：子育て世代が求める生活情報

例5：他の人にもおすすめしたい幸区に役立つ情報（取組、スポット）

例6：幸区と言えばどんなまちか（一言で表してもらう）

意見交換メモ



### （3）調査の担当

- ・調査対象と日程調整のうえ、可能な部会員が参加する。
- ・事前に主担当（インタビューをする人）を決めておく。
- ・担当者は調査の結果を直近の部会で報告する。

意見交換メモ



### （4）その他

意見交換メモ



## 会 議 錄

会議名称	第6期幸区区民会議 第3回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）
日 時	平成28年12月15日（木）18：30～19：50
会 場	幸区役所 4階第4会議室
出席者	<p>●区民会議委員（50音順） 伊藤善通委員、神谷修委員（部会長）、高橋希委員、中原敏子委員、成川慎一委員（全体会議委員長）、松井節子委員（全体会議副委員長）</p> <p>●事務局 幸区役所 田村副区長、幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、佐藤係長、安藤職員 (株)社会空間研究所 中島氏、柳沢氏</p>
欠席者	阿部稔子委員（副部会長）、板橋洋一委員、佐野禎彦委員
傍聴者	なし
配布資料	<p>●資料1－1 平成28年度幸区区民アンケート調査（概要版）</p> <p>●資料1－2 平成28年度幸区区民アンケート調査（部会関連抜粋）</p> <p>●資料1－3 幸区区民アンケート結果 経年比較一覧</p> <p>●資料2 地域の魅力発信に係る他都市事例</p> <p>●資料3 「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」調査審議スケジュール（案）</p> <p>●資料4 今後の調査の進め方について</p> <p>●参考資料 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成28年度幸区区民アンケート調査について</li> <li>2 地域の魅力発信に係る他都市事例について</li> <li>3 調査審議スケジュールについて</li> <li>4 今後の調査の進め方について</li> </ol>
決定事項	<p><b>1 平成28年度幸区区民アンケート調査について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1により、幸区区民アンケート調査の結果を確認・共有した。</li> </ul> <p><b>2 地域の魅力発信に係る他都市事例について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2により、他都市の地域の魅力発信状況を把握した。</li> </ul> <p><b>3 調査審議スケジュールについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3により、今後の調査審議スケジュールを確認した。</li> </ul> <p><b>4 今後の調査の進め方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸区の魅力をPRする対象は、30、40代を中心とした子育て世代を対象とする。 (30、40代にPRすることによりその親世代にも広がることが期待できる)</li> <li>・次回の部会では、委員及び出身の団体が考える幸区の魅力を出し合う。</li> </ul>

会議の内容 及び 主な発言	<p><b>1 平成28年度幸区区民アンケート調査について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事務局より資料1について説明した。</li> <li>○資料1により、幸区区民アンケート調査の内容を確認し、幸区の魅力、まちの活性化に係る区内の現状について確認した。</li> </ul> <p><b>2 地域の魅力発信に係る他都市事例について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンサルタントより資料2について説明した。</li> <li>○資料2により、他都市の魅力発信の方法について確認した。</li> </ul> <p><b>3 調査審議スケジュールについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事務局より資料3について説明した。</li> <li>○資料3により今後のスケジュールを確認・共有した。</li> </ul> <p><b>4 今後の調査の進め方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰が、どのような方法で」について議論することが今日の一番のテーマである。誰に発信していくのか、ということを考えていくと、区民が対象となるようにも考えられる。</li> <li>・今は川崎市はラゾーナのような商業施設や、大きな企業もいくつかあるので、よそから市民が区内に編入してくるということがここから先まだ5、6年は続く。その良さを市役所レベル、区役所レベルで発信して、転入して区民になった人たちに「幸区ってこんな取組があって、こんなところがあるよ」というような発信ができればいいなと思う。</li> <li>・何をするか、それから媒体をどうするかと進んでいくことが順序だと思う。お金もかかる前提で常設の何かをつくって「行けば何かある」というPR、その媒体をどうするかという二本立てで行く必要があると思う。</li> <li>・第二回の専門部会でいろんな意見が出て、幸区ってこんな楽しい区だとか住み続けられる区というものがあって、そういう魅力を誰に、どうやって発信していくのかということだと思う。</li> <li>・区民アンケートでは、幸区の住みやすさが81.4%で評価はされている。住みやすい、暮らしやすい理由とはなにか、地域資源とはなにかということを分析しなくてはならない。</li> <li>・最初は魅力や地域資源といった時に夢見ヶ崎公園などのスポットは出たが、アンケート概要版1ページ目の所に区の魅力（地域資源）と定義されている。これは、「地域資源」イコール「魅力」という考え方であるとともに、我々の考えるべき「魅力発信」も「地域資源」だと考えられる。</li> <li>・区の魅力というのは小さい範囲ではなくて、かなり広義のものであるという認識で我々が一致すれば、今後の調査はある程度見えてくると思う。</li> </ul>
---------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信の目的だけ議論すると抽象的なので、発信の目的と、発信のターゲットの二つを並行して議論した方が話が早いと思う。</li> <li>・ターゲットにするのはやはり若い方が良いと思う。発信方法の話になってしまふが、やはり口コミで伝わるのが一番早いのが若い方だと思うので、区役所主催で、どこもやってないようなこと、頓珍漢なこと、ちょっとこの区役所おかしいんじゃないかというようなことを真剣にやつたら面白いのではないか。若い人にとっては親しみがわいて、『面白いところなんだな、この地域は』ということを思わせられる。毎週や毎月など、最初は区役所が中心に行い、ヒットしたものを次はどこかの町内会に移してまた継続的に行うようする。毎週どこかで何かが行われているようにすると区全体がお祭り騒ぎになる。そうなると良いなと思っている。</li> <li>・魅力を発信することにおいて、やはりある程度年代を絞った方が良い。年代によって魅力を感じるものは違う。例えば区民祭は今年にぎやかに行われたが、中には『子ども向けの催し物はないですか』と探しているおばあさんとお子さんがいらした。一つの行事にしてもそれこそターゲットっていう물을考えていかなきやいけないのかなと思うし、地域資源を新しく作るのでなくして、今ある資源を充実させて、細かいところまで気を付けて、例えば区民祭だったらお子様向けのブースはここにありますよ、とか若い人にはこんな魅力があります、お年寄りには大ホールで老人会が中心に行事をしますよ、とそういうことをはっきりPRする必要があると思う。</li> <li>・前回の部会でまとめられていた区内で数多く行われている行事について、何が欠けているかということも反省の中に含めて、ターゲットを幅広くするために見直しが必要。今までの行事を全部見直しして、利点欠点というところを分析するかどうか。</li> <li>・行事は幸区の地域資源だと思う。</li> <li>・行事ではなく、「利便性」が住みやすい評価の一番大きな理由になっている。地域資源を区の魅力として定義するならば、断トツなのは「利便性」となっている。それをまずアピールするということが一つである。</li> <li>・例えば東芝科学未来館、近くで利便性は充分あるのだけれども、もう一步踏み込むにはなにをしたら良いか、と考えれば、利便性だけには限らない。</li> <li>・資料4の3(3)の調査内容の例示にある「地域資源」を区の魅力と置き換えるならば、かなり大きな形で捉えられる。住みやすさ、定住志向などの基礎的な情報は行政が持っている資料で調べられるが、世代、住環境のニーズというのを改めて調査が必要だと考えられる。一番上の地域資源の中の限定的な「まちづくり」や「街の活性化」、「行事」などは議論の中で出てきていいと思う。ただ、そのためにはまず目的とターゲットを整理して進めたいと思う。</li> <li>・アンケートで回答した人は何を利便性と考えたのか。どういう人がどういうタ</li> </ul>
--	---

ターゲット、目的をもって回答したのか疑問に思うところがある。幸区は区外に出ていくのは便利で、区内の移動が不便。なので区内の人は不便だと思っている。

- ・幸区に住んでいる方が、それとも幸区外の方に「幸区はここ良いよ」ということを、軸足をどちらにするか考えなくてはならない。
- ・(ターゲットは幸区に住んでいる方と幸区外の方の)両方だと考えられる。もし、区の独自性をやるのであれば内向きの話とも言える。
- ・区の内外に「幸区の魅力=地域資源」をアピールする、区の地域資源は何なのかという議論は分かれているが、区外へのアピールとして言えば、「利便性」は絶対に外せないキーワードである。区内の住人に対するアピールという意味では、拠点としての魅力をいくつか事例を出して分析して活用して動かしていくというのを付け加えればいい。
- ・ターゲットは区民全体、とりわけ子育て世代等が考えられる。20代30代という若い層という切り口は外せない。そこに訴えられれば、より広がると思う。将来的なことを考えたらやっぱり30代にターゲットを絞らないと取り残されると思う。
- ・30代は自分自身の事に加え、子どもを育てていかないといけない。将来とかすごく、今までと、この先のことだからすごくいいかもしない。子どもを育てていきたい人たちが今直面している問題というのが沢山出てくる世代が30代くらいかもしれない。
- ・今、町内会とかでいろんな活動をしていると、ちょうど自分の年代が孫の子育てを手伝っている。そうすると保育所問題など、色々でてくる。働くことと、子育てを二世代とか三世代でやっているというのは非常に生活のベースであると思う。キーワードはこれだと思う。
- ・なかなか一つの世代で子どもを育てていくのは難しい。生まれた子は、昔ならおじいちゃんおばあちゃんが居て、面倒を見られていたが、今はそのような環境ではない。大家族とまでいかなくていいかもしないが、二世帯というのが増えてくればいいのかなと思う。ターゲットとしては、区内の若い人を対象が良いと思う。アピールする良いところとしては、「交通利便性」や、「買い物に便利だ」というようなこととか。区内の人には「区でこういうことをやっている」ということを教えてあげるという形でまとめられればいいのではないか。
- ・第5期に、高齢者などをやって、ご近所支え合いばかりやったので、今度は若い方というのは良いと思う。視点を変えて、若い人達の悩みを、具体的な内容を掘り下げる事や、「ここがあるから幸区は一番いいよね」と言ってもらえるようなものを整理してみることが良いと思う。幸区は、とにかく通勤に便利なことが特徴であるが、勤務するにしても便利なところなので、その人たちの悩みも一緒にあるだろうから、目線を変えれば、できることが考えられるの

ではないかと思う。何か新しい物を作らなくても、魅力の発信ができるかもしれない。

- 副区長がお話しされた三井不動産（パークタワー）への幸区内での転居が多いというのは、今の住まいを売って移る、なのか、住まいは若干離れてはいるけど、親がいて、おじいちゃんが居て孫がいる。そういう形なのか。そうすると40代くらいをターゲットにすれば、おじいちゃんの世代も含まれるし、孫の代も含まれると。効果的に考えることが可能だなと思う。
- 自分たちはここに根付いている人ばかりなので、転居者というのは頭には入っていなかった。

以上

## だい き さいわいくくみんかいぎいんさんよめいほ 第6期幸区区民会議委員・参与名簿

【委員(部会別、50音順)】

へいせいねんがつにちげんざい  
平成29年1月5日現在

ひと こうとうあんぜんぶかいぶかい 人にやさしい交通安全部会(A部会)		
あんぜんあんしんひと (安全・安心で人にやさしいまちづくり)		
審議テーマ		
○交通安全対策の推進		
順位	しめい 氏名	すいせんだんたいこうぼくちょうすいせん 推薦団体・公募・区長推薦
1	あおき 青木 晴彦	さいわいくしかい 幸区医師会
2	あべ 阿部 法弘	さいわいくきょうぎかい 幸区PTA協議会
3	いいじま 飯島 忠男	こうぼ 公募
4	おの 小野 晴子	こうぼ 公募
5	かねだ 金田 さとみ	さいわいく 幸区子ども会連合会
6	ケオバサト ラツアミチャン	くちょうすいせんたぶんかきょうせい 区長推薦(多文化共生)
7	さかぐち 坂口 功	さいわいくろうじん 幸区老人クラブ連合会
8	しぶたに 渋谷 多美枝	こうぼ 公募
9	たかはし 高橋 美三子	さいわいくこうつうあんぜんたいさく 幸区交通安全対策協議会
10	はしもと 橋本 文夫	かせやま さいわい加瀬山の会
11	みうちら 三浦 忠一	さいわいじゅほうさいれんらく 幸区自主防災連絡協議会

みりょくはっしん 魅力発信でつなぐ まちの活性化部会(B部会)		
さいわいくみりょくはっしんちいき (幸区の魅力発信と地域コミュニティの活性化)		
審議テーマ		
○地域の魅力発信		
順位	しめい 氏名	すいせんだんたいこうぼくちょうすいせん 推薦団体・公募・区長推薦
1	あべ 阿部 毅子	ひよし 日吉のわッ
2	いとう 伊藤 善通	こうぼ 公募
3	おおの 大野 勝彦※	さいわいくほご 幸区保護司会
4	かみや 神谷 修	くちょうすいせんさんぎょう 区長推薦(産業)
5	さの 佐野 稔彦	さいわいくみんせいいいんじどういんきょう 幸区民生委員児童委員協議会
6	たかはし 高橋 希	ひよししょうてんがいれんごうかい 日吉商店街連合会
7	なかはら 中原 敏子	さいわいくしゃかいふくしきょう 幸区社会福祉協議会
8	なりかわ 成川 慎一	さいわいくちょううないかいれんごう 幸区町内会連合会
9	まつい 松井 節子	さいわいくぶんかきょう 幸区文化協会

※平成29年1月5日付け委嘱。所属する専門部会については、委員長が  
がつにちかいさいよていくみんかいはかせいしけい  
3月21日に開催予定の区民会議に詰って正式に指名する。

【参考資料3】  
【参考(50音順)】

順位	しめい 氏名	所属
1	おだ 小田 理恵子	
2	かぶらき 鏘木 茂哉	
3	かわの 忠正	
4	ぬまさわ 沼沢 和明	かわさきしげかいぎいん 川崎市議会議員
5	のだ 野田 雅之	
6	やまだ 山田 益男	
7	わたなべ 渡辺 学	

順位	しめい 氏名	所属
1	いちかわ 市川 よし子	
2	たなか 田中 徳一郎	かながわけんぎかいぎいん 神奈川県議会議員

だいきさいわいくみんないぎすけじゅーる  
「第6期幸区区民会議」スケジュールについて(2017(平成29)年1月31日時点)

さんこうしりょう  
参考資料4

	2016年度(平成28年度)												2017年度(平成29年度)												2018年度(平成30年度)			
	がつ 7月	がつ 8月	がつ 9月	がつ 10月	がつ 11月	がつ 12月	がつ 1月	がつ 2月	がつ 3月	がつ 4月	がつ 5月	がつ 6月	がつ 7月	がつ 8月	がつ 9月	がつ 10月	がつ 11月	がつ 12月	がつ 1月	がつ 2月	がつ 3月	がつ 4・5月	がつ 6月					
くみんかいぎ (全体会議) 企画運営 会議	7/28 だい 第1回				11/24 だい 第2回				3/21 だい 第3回																			
人にやさしい 交通安全 全部会(A 部会)			9/27 だい 第1回	10/20 だい 第2回		12/20 だい 第3回		2/2 だい 第4回	3/2 だい 第5回																			
魅力発信でつなぐ まちの活性化部会(B 部会)				10/5 だい 第1回	10/27 だい 第2回	12/15 だい 第3回	1/31 だい 第4回	2/27 だい 第5回																				
その他									2/6 ことうかい 交流会																			

6/30

第6期幸区区民会議任期終了

区長へ報告書の提出

提言内容の決定  
第6期幸区区民会議フォーラムの実施

報告書のとりまとめ

